

16. (仮称) 南部コラボセンター建設に向けた地域説明会での
「魅力ある学校づくり構想」の説明・質疑応答(概要)

○日時：平成28年(2016年)5月21日(土)10時～

○場所：庄内公民館

質問・意見等	豊中市からの回答
<p>案1なら第六中と庄内小を併設するということか。教室は足りるのか。</p>	<p>既存の校舎のままでは教室は足りません。全面的な建て替えが必要になります。1,100人・35学級に加え、特別教室等を整備しなければなりません。例えば、案1では庄内小学校敷地の南側に校舎を、北側に2つ体育館を建てます。空いている所に低学年スペース、そして第六中学校敷地に運動場、南部コラボセンターを建てる内容です。案としてお示ししていますが、もっと工夫できる余地があります。機能的で安全な学校を作るために、様々な観点からのご意見をいただきたいと考えています。</p>
<p>校舎は建て直すということか。</p>	<p>まだ何も決まっていません。</p>
<p>野田小学校の児童が、庄内小学校の場所に通う場合、危険なところがあるのでは。通学路は安全なのか。</p>	<p>通学路の件はこれまでもご意見をいただいています。通学路については、今後案をお示したいと考えています。通学路の安全確保については、車道の歩行者通行部分のグリーン舗装、電柱等への注意喚起巻きつけ看板の設置などを進めてきました。また、今年度から2カ年で防犯カメラの設置を予定しています。通学路の安全は市教委だけではなく、市長部局、例えば都市基盤部等と連携して考えなければならない問題であると認識しています。</p>
<p>私は千成校区に住んでいるので南校になっても遠くならないが、庄本、島江の子どもは、登下校の距離が2Km近くになる。低学年には厳しい距離である。地方ではスクールバスで登下校を送迎している事例がある。スクールバスをだすことはできないのか。庄内地域では近所にスーパーが無く、買い物に困っている高齢者が多い。コミュニティバスを運行させ、朝と夕方はスクールバスとして登下校に利用、日中は老人が買い物に行くのに利用とすることによって、街が活性化するのではないか。話は変わるが、案1では1～9年生が同じ施設で過ごすことになる。そんな学校で働くことになる先生のつくり方というか、小学校の先生は1～6年生、中学校の先生は1～3年生を本来教えるのだから、一貫校になったらどのような方針になるのか。他校から小中一貫校へ転勤してくる先生はその環境に対応できるのか。</p>	<p>スクールバス、コミュニティバスについては今後の検討であり、持ち帰らせていただきます。 小学校免許なら1～6年生、中学校免許なら7～9年生を教えることができます。小学校免許だけなら7～9年生を教えることはできませんが、中学校免許を所持していれば、小学校でもその教科は教えることができます。小中一貫教育は小学校と中学校の教員が連携して子どもを育てる、9年間を見通した教育です。今現在でも全市的に小学校と中学校が連携して、小中合同研修等を実施しています。今後、小中一貫教育についての研修も行っていきたいと考えています。</p>

<p>案2についてだが、小学校側(1～4年生)、中学校側(5～9年生)となるわけだが、先生の数はどうなるのか。</p>	<p>教職員の数は、学級数に応じて、法律で定数が決められています。</p>
<p>再編後の跡地の利用についてはどう考えているのか。防災拠点として残してほしい。</p>	<p>跡地の利用について、具体的に検討はできていません。今後、どう残すのかを考える必要があります。防災、子育て、地域コミュニティなど様々な観点から利用または売却することも考えられます。跡地については庄内のまちづくりの検討が必要になります。</p>
<p>働く若者にとって魅力がある街にしていけないといけない。保育所との併設は考えていないのか。</p>	<p>構想案の南校では、せんなりこども園の敷地を利用することを想定しています。現在豊中市では元保育所が19園、元幼稚園が7園、合計こども園が26園あります。南部は待機児童がおらず、所管部署であるこども未来部において、適正配置の検討を行っています。こども未来部の検討状況を注視しながら、幼保小中、つまり0歳～15歳までの一貫性のある教育等、様々な可能性を視野に入れて検討していきたいと考えています。</p>
<p>建設費用についてはどのように考えているのか。</p>	<p>構想案1であれば2校建設することになりますが、現在具体的には何も決まっておらず、数字を出すことはできません。</p>